

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松義人
印刷所：SRS株式会社
定 価：一部30円
2015年11月20日
第**389**号

「ゆとり」

支援センターわかぎ
施設長 古橋 誠

触れるからです。欲を言うなら、もつとはじめてもいいのでは…と思うほど慎重な場面もあります。

前段で「ゆとり世代」について触れましたが、ここからは暮らしの「ゆとり」について考えてみたいと思います。ゆとりある暮らしとイメージすると、経済的にも日課にも余裕があり、心安らかに生活できるように思うのではないのでしょうか。経済的には、障害者基礎年金の範囲の中で生活ができるように配慮はしていますが、正直ゆとりはありません。日常生活では何とかやりくりできますが、急な出費があると、家族からの援助が必要な場合も出てきます。

して、暮らしの中に「潤い」と「癒し」を感じてもらえるよう設計段階から進めました。

一方で支える側の職員も「ゆとり」は大切です。単純に業務効率が良い時間配分に余裕があるという意味ではなく、利用者の声に耳を傾け、ともに歩み、利用者の暮らしと一緒に作っていきける心のゆとりを意味します。実際にそのゆとりが今の現場職員にあるかと言えば、なかなか難しいのが現実です。身体機能が衰え介護中心の方、行動特性が強く個別対応が必要な方、自己アピールが強い方、逆に自己表現が弱い方など、多岐に渡る支援が混在する中で、ルーティン業務と利用者個々のニーズに合わせる支援の両立を実現するのは並大抵ではありません。そんな状況の中で、一生懸命に利用者に向き合ってくれる職員は、法人の宝・人材だと思っています。社会的養護を必要とする利用者の日々を支える職員が、心にゆとりを持てるよう、かつ日々の仕事が充実できるような育んでいくのが管理者の大きな責務と感じつつも、自分のゆとりのなさに、不甲斐感を覚えます。

心にゆとりを持てるように、「明日のことを思い煩うな」創設者山浦俊治氏も好きだった聖書を覚え、日々過ごしたいと思えます。

最近よく耳にする言葉の中に「ゆとり世代」という言葉があります。現在の概ね27歳～12歳の年齢層を指すようで、それまでの学習指導要綱を改定し総カリキュラム数が削減された時代の子どもたちです。総授業時間数は、改定前の1986年生まれの子どもが8935時間なのに対し、ゆとり世代と真ん中の1995年生まれの子どもは8307時間であり、最大年間628時間も差があったようです。ゆとり教育では、カリキュラム数を削減した分【自分で物事を考える力】を引き出すことも目的のようでした。教育論者からは様々な評価がありました。数値で見える学習能力評価が低下したことで、学習指導要綱の見直しはなされ、ゆとり教育は終焉を迎えました。テレビでは「ゆとり世代」の代表としておバカキャラの若者が人気ですが、この若者を総じてあたたかも「ゆとり世代」を論じることには抵抗があります。この数年に入職してきた「ゆとり世代」の職員をみると、テレビでもはやされているおバカキャラとは対照に、誠実に利用者に関わり、日常業務を遂行してくれる若者が多いことに

利用者の暮らし(日課)を考える際に意識すべきことが、ライフステージに添った生活スタイルの組み立て方です。支援センターわかぎの利用者は平均55歳、通所者も含めた最高齢は76歳になります。元気でエネルギーだった若者も、白髪交じりで足腰も不自由になってきました。青年期のエネルギーで充実した活動内容から、壮年期の安定・高年齢の安堵へと、暮らしの在り方も今までは違う組み立て方が必要になってきました。既に活動プログラムでは作業中心の活動から、趣味・余暇をメインにしたグループ編成をするなどシフトしました。また、普通浴槽で入浴困難な利用者は機械浴で入浴しています。カフェテリアや浴室は、緑多く開放感を意識

つばさ静岡 開設10周年

静岡県東部・中部地区の重症児を守る会の要望を受けて、また静岡県の勧めと支援を受け、静岡市葵区城北に「つばさ静岡」を開設したのが、2005年10月でした。開設から10年を迎えることができ、これまでの歩みを振り返り、報告します。

「つばさ静岡の10年を

支えてくださった方々」

つばさ静岡 施設長 山倉 慎二

つばさ静岡が開設して10年が経過しました。この間、多くの方々を支えられ、助けられ、ご協力いただけてここまで来ることができました。皆様には言葉では言い表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

先日、10周年を祝う「フェスタつばさ」を行いました。「フェスタつばさ」は毎年行っている地域交流を目的とした催し物ですが、今回その中で、簡単な挨拶とともに、これまで長きに亘りつばさ静岡へ足を運んで、ご奉仕下さった方々への感謝状をお渡ししました。

つばさ静岡は医療機関でもあるので日々の簡単な診療は施設内で行うことが出来ます。しかし医療と密接に関係し生活の上でも欠かすことの出来ない口腔ケア、歯科治療の専門家がおりません。また高度な医療的ケアを要する超重症児が歯科医院へ通院することは非常にリスクが高く困難です。このような実情を知った静岡市の「歯と口の健康支

援センター」の歯科医師 服部清先生

が、モデル事業として歯科衛生士の方々とともに開設当初から定期的につばさ静岡へ訪問して下さっています。歯や口腔の問題が生じた際にはいつでも快く相談に乗っていただける心強い存在で、本当に感謝です。

生活の上で不可欠でありながら施設内で完結出来ないことのひとつに、整髪の問題があります。開設当初は外出を兼ねてご家族に連れて行ってもらったり、職員がバリカンで刈ったりなどしていましたが、ビューティーヘルパーさん、理容うんのさん、チエコ美容院さんが次々に訪問理髪をしてくださるようになりました。今では5か所から理容師さん美容師さんたちが訪れてくれるようになり、利用者さんも毎回楽しみにおしやれをすることができるようになりました。

利用者さんたちはほとんどのみなさんが動物好きです。しかしながら諸々の事情により施設内で動物を飼うことは出来ません。そんな中、きゆうたん犬猫病院の先生を中心とした動物ボランティアのグループが年に1回施設を訪れて下さるようになりました。おとなしく

訓練された人懐っこいワンちゃんたちと直接触れ合うとても楽しい機会で、このときには普段見ることのできないようなとびつきりの笑顔があふれます。

静岡草深教会の牧師先生には毎年クリスマス会でのお話をお願いする他、倫理委員会の委員としてご奉仕いただいております。またイースターには教会の方々と、素敵なイースターエッグを配りに施設をご訪問くださいます。

この他にも、ボランティアで音楽会を開いて下さっているプロの音楽家、アマチュアのミュージシャン、大学生や高校生たちがこの施設を明るく楽しく盛り上げて下さいます。さらには訪問教育の先生、十年間この施設をピカピカに磨き続けて下さっている活き生きネットワークのスタッフ、洗濯業務に活躍いただいている就労支援事業所の皆さんなど、数え上げればきりがありませんが、このように非常に多くの方々を支えの中でこの十年があるのだということをひしひしと感じます。

また毎年ご寄付を下さるヨシケイ様をはじめとして、毎年多くの方からご寄付をいただいています。一昨年から「つばさ静岡を支える会」が発足して、職員にとつても施設運営の上でもたいへん心強い存在となりました。

これからも多くの方々のお力をお借りすることと思えます。暖かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。

「つばさ静岡第二章の始まり」

つばさ静岡 療育部長 鈴木 良成

社会福祉法人小羊学園が、静岡市に重い障害を持つ方々への支援として事業展開することになり、10年という時間が過ぎました。皆さんは、この10年どのように過ごして、どのように感じてきたでしょう。歳を重ねるにつれて時間は、短く感じるものです。つばさ静岡が、開設する時、私はおおぞら療育センター（現聖隷おおぞら療育センター）で勤務しておりましたので、小羊学園として新たな地でスタートする大変な時期の経験はありません。しかし、三方原スクエアの移転改築や支援センターわかぎの全面改築のような期待だけではない、それ以上の強い思いがあったように感じています。それは、重症児者やそのご家族の皆さんが、大いにこの施設を待ち望んでいたからではないでしょうか。

静岡市での事業展開に小羊学園としても当初は、手探り状態であり不安定な中でも、スタッフが経験を活かし、日々調整し、皆さんに支えられながら成長してきたとも言えるでしょう。赴任して5年が経過する中で、着々とつばさ静岡がこの地に根付いた（根付きつつと言った方がいいでしょうか）施設として存在しているのを感じています。ただ、すべてのニードに答えられているわけではありません。ほんの少しの手助けになっているだけかもしれません。私の

中の5年は、短く感じています。中身の濃いものであると感じています。つばさ静岡が果たす役割が、着実に大きくなっているからでしょう。この社会で暮らしている以上、集団が大きくなればなるほど、いろいろな関係性の中で常に流動的に回っていて、日々やりくりをしなくてはなりません。安心できる生活、安心できる環境、安心できる社会を皆が望んでいることも確かです。事業所として、人材が確保され満たされている。経験が豊富で実績がある。財政的に豊かで余裕がある。このような安定した運営をしていく為には、どうしても皆さんの支援が必要になります。10年経過した1年目としてしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

入所利用者の重症化や高齢化、入所待機者、在宅ニーズへの対応など、つばさ静岡の抱えている課題は多種多様であり、より多くの支援して頂ける方々との連携の中で解決していかなくてはなりません。施設で働く職員の確保も最近かなり厳しい問題です。社会全体がこのような状況の中で動いているのが現状です。つばさ静岡の新たな歴史を良い方向に築いていけるよう皆さんに支えて頂きながら進んでいきたいと思えます。フェスタつばさは、多くの方々との出会いの場であり、皆とひとつになっていることを実感できるそんなイベントであります。

「フェスタという名の都市」 つばさ静岡 生活支援員

大川 武司

実に多くの人が集まった。早朝、フリマに出店する方々が集まり出し、次いで保護者や近隣の方が続く。いつもは静かなつばさが少しずつ別な空間に変わっていく。今年は開設10周年ということもあり、来賓を迎えるの式典も催され、例年とは違う厳粛な雰囲気があった。毎年恒例の職員による太鼓も今年も開設当初からいる職員の顔ぶれが並んだ。また沼津魚がし鮭の職人さんが来て下さって直接目の前で(無料にて)握っていただくという、にわかには信じがたい企画が盛り込まれ、職人の手で次から次へと握られていく寿司と、あつという間に出来上がった長蛇の列はまさに圧巻の光景であった。またネイルコーナーと似顔絵コーナーという初めての試みは、当初想像していた客足を大幅に上回るものであった。常にお客さんが並び続けるという盛況ぶり、何と開店からフェスタ終了までの五時間(一休みなし)に続けられた。特に似顔絵コーナーを担当していただいた画家さんは昼食を食べる時間すらなく、主催サイドとしては大いに反省すべき点だ。他にも誘導や交通整理において行き届かない点が多々あったが、何卒ご容赦願いたい。

とはいえ、実り多いフェスタだったというのが正直な感想だ。何よりよかった

のは、利用者と職員が一緒になったの演奏会、展示会、カフェ、体験コーナーである。例年はお客さんとして参加していた利用者や職員が、今年はお客さんを迎える立場となつて参加できたことは特筆すべき点である。日頃ゾーンで行っている活動を体験できるコーナー、利用者が給仕として活躍するカフェ、手形と足形で作品を制作するコーナー、巨大な射的場などが並び、いずれも利用者と職員による出店である。お客さんとしてフェスタを楽しむのもいいが、フェスタに向けて時間をかけて準備し、自分たちの手でフェスタを作り上げていくのではやはり大きな差がある。

そもそもフェスタというのはお祭りなのだから、より多くの人が集まったほうがいい。また地域交流の一環としても行われているわけだから、自分たちで外部のお客さんを迎える立場の方が目的に合っている。中でも、日頃の音楽療法の成果を披露したあかねによるステージ演奏は多くの目を惹いた。午後のステージイベントには、静岡英和学院大学の学生による軽快なダンスや、もはやフェスタの顔として定着したアイニケによるアフリカの大地を感じさせる太鼓演奏があり、いずれも大盛り上がりだった。プロの仕事だなあと見ていて思ったが、そのプロの立つ同じステージであかねの人々が演奏し、会場を盛り上げたことはすばらしいことだと思える。

歴史学者の網野善彦は、都市とは漂泊の民がたまたま交錯してできる場所だとしている。漂泊という現代ではあまりいいイメージはないかもしれないが、中世では諸国を遍歴する人のことを指し、それは宗教家であったり、職人であったり、また商いをする人だったりする。そしてそのような多種多様な技能を持つ人たちが出会ってできる場所が都市なのだそう。

フェスタもまたそのように多様な技能を持つ人々が集まってできあがった都市だといえる。願わくば、10年の節目を迎えたつばさ静岡が、このまま内閉することなく、常に外部に開かれた都市へと発展してほしいと切に願う。



浜松市障がい児放課後支援連絡協議会職員研修

日 時：11月11日（水）9時半～12時
 場 所：アンサンブル江之島
 6階ミーティングルーム
 対 象：障がい児放課後支援に関係、関心のある方
 主 題：「虐待をしない、させない職場に」
 講 師：上島浄志先生
 （にじ管理者・元浜松特別支援学校校長）
 申 込：Eメール：parousia@kohitsuji.or.jp

- ◇理事長 稲松 義人（留任）
- ・理事 雨宮 寛（新任）
- ・理事 池谷 慎人（留任）
- ・理事 出水 巖生（新任）
- ・理事 鈴木 良成（留任）
- ・理事 古橋 誠（留任）
- ・理事 山倉 慎二（留任）
- ・理事 渡辺 禎子（留任）
- 監事 河村 良枝（留任）
- 監事 山田 英幸（留任）

10月24日に行われました、第79回評議員会において、左記の理事を選出いたしましたのでご報告します。なお、任期は2017年10月25日までです。

社会福祉法人小羊学園 役員改正の報告

小羊学園を支えるボランティア

はまきた食育の会 様

「はまきた食育の会」は昭和51年に、旧浜北市のご婦人達で結成された団体。地元浜北で「パパママクッキング」「親子料理教室」などを開催し、食を通して地域貢献活動をしておられます。支援センターわかぎとのお付き合いは、10年ほど前から。「利用者に食事作りをしたいけど、職員だけでは対応が難しい」と市に相談した際に、「はまきた食育の会」をご紹介いただきました。それから、毎月1回「料理教室」を北浜南部協働センターの調理実習室で行っています。毎回バラエティに富んだメニューを利用者と一緒で作って下さるので、とても楽しみなイベントになっています。会員の中には、以前から裁縫のボランティアにお越し下さっていた方や、グループホームの食事作りのお仕事に来て下さる方もおられ、感謝・感謝です。これからもどうぞよろしく！



私たちと一緒に働きませんか？

- 職 種 生活支援員
- 勤 務 地 浜松市三方原地区
三方原スクエア
グループホーム
- 資 格 問わず（不問）
福祉系有資格者優遇
- 待 遇 法人規定による
- 休 日 年間110日
- 福利厚生 ソウェルクラブ加入

○問合せ 三方原スクエア
 担当：福地
 053-414-1833



マイナンバー制度が来年1月から運用開始されるため、小羊学園でも特定個人情報取り扱いに関する規定等を事務管理者が整備し、理事会承認を受けた。そもそも論ではあるが、マイナンバー制度が国民にどれだけ益があるのか多くの国民がいまだ認知できていない。個人情報の一元管理で脱税や年金未納対策になるとも言われているが、全うな国民に利便性あるものであつてほしい。住基ネットの二の前にならないことを願いつつ、今後の動向を追いたい。
 北風が肌を刺す季節となりました。晩秋を楽しみつつ、冬支度を始めましょう。お身体どうぞご自愛を。
 (F)

編集後記

小羊学園を支える会

2015年度 寄付金報告

9月 受付分 211,300円（17件）
 累計 4,430,730円（113件）

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局（鈴木）
 小羊学園法人本部 ☎053-584-3337